

告 辞

桜の花もほころび、風のぬくもりや陽の光に、春の訪れが感じられます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和3年度 佛教大学通信教育課程 第22回前期大学院学位記、第66回前期卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができたのは、お一人お一人のご努力の賜物であることはもちろんですが、なにより、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご理解やご支援があったからに他なりません。ご家族や保護者の皆様には、今日までのご助力に敬意を表し、心よりお喜びを申し上げます。

さて、コロナ禍は終息の兆しを見せず、すがたを変え形を変えて私たちを脅かし続けています。本来ならば卒業生、修了生の皆さん、そしてお祝いに駆けつけてくださる方々が一堂に会してこの式が執り行われるところですが、本日は、このような形を取らざるを得ませんでした。非常に残念です。しかし本日の形も、眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神に基づいて、私たちが今できる形で皆さんをお祝いしようという想いのあらわれに他なりません。本来の形でないことを歎くのではなく、制約の中でもできることで皆さんを心からお祝いしたいと考えております。佛教大学で学んだ皆さんは、きっとそのことを理解し、そして年齢や性別を超え、自分を大切にし、そして他者をも大切にできる人となって本学から卒業・修了されるものと信じています。

世は混迷の度合いを増し、コロナ感染症はもとより、自然災害や人災、事件や戦争など、先行き不安なことを見聞きすることが多く、暗い気持ちになることもあります。その中で大切な方を喪われた方、療養中の方、あるいは、台風や豪雨などによって住むところを無くされ方もあるでしょう。それらすべての方々に心からお見舞い申し上げます。私たちは誰もが、そのような状況に遭遇する可能性を持っています。決して他人事ではありません。だからこそ、常に、悩み苦しむ人の存在に気付けることが重要となってきます。

とりわけ、ロシアのウクライナ侵攻には強い憤りを禁じえません。人の命を脅かすことは許されません。ウクライナの人たちはもとより、大方のロシアの人々も望んでいないはずのことが行なわれ、心を痛めておられる方も多いでしょう。一刻も早く戦火が止み、平和な状態を取り戻すことを願って、今、私たちにできることを行なっていかなければならないと考えます。

一方、皆さんは、通信課程という孤独な学修の中でも、佛教大学でさまざまな知見を得、免許や資格を取得し、技術を身につけられたことと思います。またコロナ禍で、スクーリングも遠隔となったり、学習会が開かれなかったり、指導教員との面談もままならなかったりしたことでしょう。しかしそのような中であっても本学での学びを通じて、目の前に起こる、時には厳しい現実にも対処しつつ、長所も短所も含めた自分のすべてを受け入れ、その自分にできることを活かす力を身に付けられたと思います。その力は、必ずや、混迷の続く世の中を生きていく上で、大きな糧となるでしょう。自分の学びに自信を持ち、佛教大学を卒業・修了したことに誇りを持って、目の前の道を一步一步着実に歩んでください。皆さんの、自信と誇りを持った着実な歩みが、未来を形成します。未来は希望です。皆さんの着実な歩みが間違いなく世に希望をもたらすはずです。ひとりひとりが希望の灯となることを信じて、歩みを続けて下さい。

本日で一旦は皆さんの学びは終了しますが、時代の変化はとても速く、科学の進歩も速い昨今、新たな学びを必要とされる時も来るでしょう。変化する社会において力を発揮するには、学び直し、また考える力に磨きをかけることが必要となります。悩んだり迷ったり、そしてもう一度学び直したいと考えたときは、是非、佛教大学に帰ってきてください。

希望を胸に、自信と誇りを持って、ご活躍されることをお祈りし、告辞いたします。
本日は、おめでとうございます。

令和4年3月25日

佛教大学長 伊藤 真宏